

医療研究開発革新基盤創成事業 (CiGLE) 中間評価結果

1. 中間評価を実施した課題

課題名	産医連携拠点による新たな認知症の創薬標的創出
代表機関	エーザイ株式会社
公募タイプ	研究開発タイプ

2. 本課題の概要

本課題は、エーザイ株式会社が慶應義塾大学と共同で設立した産医連携拠点「エーザイ・慶應義塾大学 認知症イノベーションラボ (EKID)」を通じて、基礎から臨床までの横断的共同研究と技術・人材交流から生まれるメリットを活かし、認知症治療に向けて成功確度の高い創薬標的の発見を目標とする。詳細な臨床情報が付加した臨床試料を取得・分析し、AI を駆使してこの臨床データと各種オミクスデータとを多次元相関解析することで新たな創薬仮説を構築し、認知症病態を反映するモデルを開発し、検証していく。

3. 本中間評価の目標

- (1) 進捗状況や成果を把握する。
- (2) 本中間評価にあわせて設定されたマイルストーンはない。

4. 成果

本課題の研究開発の拠点となる産医連携拠点 EKID について実験室および解析室の整備がほぼ終了し、創薬標的因子の同定へ向けた研究開発項目について、順調に研究開発を進めている。

5. 評価結果

ヒトの臨床データを動物実験にフィードバックするリバーストランスレーショナル研究により、新たな創薬仮説を作り、検証する手法は非常に興味深いアプローチである。多様で良い創薬仮説がいくつできるかが、本課題の最大のポイントとなるので、議論をしながら良い仮説を作っていくことが望ましい。さらに、認知症をターゲットとする本課題がモデルケースとなり、他の疾患にも応用できる仕組みができると良い。

また、将来的に多くのアカデミアや企業の参画があれば、研究開発計画の加速も期待される。若手研究者の育成においては、産医連携拠点である EKID をモデルとして、大学院生をリサーチアソシエイトのような地位で正式に雇う仕組みなどの活性化が期待される。

本格的に研究データが出るのはこれからであり、引き続き全体のコーディネートとマネジメントに務めてほしい。

以上をもって、本課題の継続を可とした。